

Rotary 茂原中央ロータリークラブ 会報

イマジン
ロータリー



会長 武田大輔 幹事 飛留間和紀

クラブ創立 1993.1.12
例会日 毎週火曜日/点鐘 12:30
例会場 茂原卸団地組合会館
事務局 TEL 0475-26-1515
FAX 0475-26-1516
Email mobarach.rc@gmail.com
<http://mobarachuo-rc.com>

- ★ ジェニファー E. ジョーンズ RI 会長
- ★ RID2790 小倉 純夫 ガバナー
- ★ 第7グループ 平野 一隆 ガバナー補佐



第 31 巻 通巻第 1339 号 第 22 号 例会通回第 1344 回

★ クラブ会報委員長 片岡 太 ★ 副委員長 横堀 喜一郎

本日の例会プログラム 令和 5 年 1 月 31 日 (職業奉仕月間)

点 鐘 武田 大輔 会長
ソング それでこそロータリー

会長挨拶 武田 大輔 会長
幹事報告 飛留間和紀 幹事

委員会報告
ニコニコ

* 平野一隆ガバナー補佐
下期クラブ訪問*

出席報告 担当委員会

1月24日例会

会長挨拶 武田 大輔 会長

皆さん、こんにちは。本日は長生村の小高村長さんにお越しいただき、卓話をお願いしております。小高村長お忙しい中ありがとうございます。よろしくお願ひいたします。

今夜あたりから非常に寒くなるそうで、10年に1度の寒波と言われていますが、雪など降らなければいいなあと思います。また明日明後日は凍結なども心配なところです。子どもの頃は雪が降るとワクワクしたりしていましたが、今も子ども達はそうだと思います。ですが、少しでも積もってしまったらするとかなり慌ててしまって、私の会社も長南町にあるんですが、ほぼ毎日千葉と木更津方面に回収等行くことが多く、また交通量も多いですし、心配なところではあります。融けるのも結構早いんですが、長南町よりの長柄町と隣の市原市の鶴舞は凄い雪の量も全

然違って、以前もかなりトラブルになってしまったのを思い出します。

雪に慣れてないせいもありますが、スタッドレスタイヤをはいたり、チェーンも用意してあるんですけども、普段やってないので取り付けにもかなり時間かかってしまって、時間通りにいかず予定を変えなくてはならず、事務所も大変大忙しになってしまいました。幸い今まで事故等はありませんでした。雪はなるべくだったら降ってもらいたくないなと思っています。

それでは今日は、先程もお話した通り小高村長に卓話をお願いしてありますので会長挨拶は以上とさせていただきます。

ありがとうございました。

幹事報告 飛留間 和紀 幹事

●地区 (回覧)

- ①「コーディネーターニュース 2023 年 2 月号」
- ②大網ロータリークラブより、第7グループ 会員・家族親睦ゴルフ大会のご案内
日時：令和 5 年 3 月 24 日 (金)

8 時 7 分スタート予定 7 時 30 分集合
場所：東千葉カントリー倶楽部 (西コース)
プレー費：キャディ付 14,980 円 (昼食込み
飲み物代別途) セルフ 10,980 円
(昼食込み飲み物代別途)

会費：4,000 円 (表彰式不参加の方は 3,000 円)

- ③大原ロータリークラブより、インターシティ・ミーティング開催のご案内

日時：2023 年 2 月 21 日 (火)
IM 受付開始 13 時 15 分
点鐘 13 時 45 分 閉会 16 時 15 分
懇親会 16 時 30 分～18 時
場所：九十九里 ヴィラそとぼう

●例会案内 (回覧)

特になし

●会報受信 (回覧)

特になし

●その他 (回覧)

- ・報告 ロータリー財団への年次寄付金及びポリオプラス寄付金を送金いたしました。

外部卓話

『長生村における防災教育』



長生村
村長 小高 陽一 様

皆さん、こんにちは。
ご紹介いただきました長生
村村長の小高陽一です。
先般は発電機をいただき、
ありがとうございました。

大事に使わせていただきます。ありがとうございました。本題に入ります前に簡単に自己紹介をさせていただきます。70 になります。そして就任して今 10 年目 3 期目です。3 期目の 2 年半が過ぎたところでございます。茂原の田中市長、引退された鶴岡県議とも同い年です。来年になりますと選挙が茂原から始まって一宮、長生、睦沢と四つ続きます。私は議員も 5 期ほど勤めましたが、行政に関わってきただんだん長生村も実は人口が減っております。一時私が議員の時の 20 年位前に 15,000 人を越えたことがあったんですが、残念ながら半年持ちませんでした。15,000 人を切ったからは雪崩のように減り続けまして、今 13,738 人が今月 1 日の人口です。月だいたい 20 人から 25 人の方がお亡くなりになって生まれる子どもが 2 から 3 人。もう本当に目を覆いたくなるような人口ボードが毎月出るんですけども、がっかりするばかりです。

じゃあどうしたら、子どもを村に残すか。或いは帰ってきてもらうか。そういった中で思いついたのが、中学生に「もうお前達が村を守っていくんだよ。お前達に今度は託すんだよ。」って言うそういう投げかけでございます。その一環ともいうのが、長生中学校につくった防災部です。今日は皆さんのレジメにあります『長生村における防災教育』ということについてお話したいと思います。実はこの話は昨年茂原ロータリークラブさんにも呼ばれてお話した内容と一緒になんです。というのは是非これをうちの村だけではなく、茂原市、長生郡内或いは千葉県中に広げていただきたいなという思いがあります。これも去年の話ですが、千葉県の消防学校に呼ばれた時にこの話をさせていただいたら、同席した佐倉の市長さんや君津の市長さんも「それいいね」というわけでうちも是非それをつくりたいというお話しでしたが、まだちょっとできてないみたいです。

それでは、内容についてレジメに沿ってお話させていただきます。

長生村における防災教育

長生村の小中学校 4 校では令和 3 年度より、中学校に「防災部」、3 校ある小学校に「防災

ラブ」を立ち上げ、将来的な地域防災力の向上に繋がるよう、防災教育を進めています。

今回は長生中学校防災部の活動についてご紹介いたします。

長生中学校防災部は、東日本大震災後の避難や避難所生活において中学生や高校生が大きな役割を担ったことや、高齢化が進む地域において、災害時にすぐに行動できる「災害時に長生村に貢献できる中学生」の育成を目的に設立しました。

令和 3 年 6 月に発足し、令和 3 年度は部員 64 名、令和 4 年度は部員 76 名と部員数は増加しています。

活動としては、令和 3 年度には発足式、長生郡市消防本部ご協力による梯子車や消防車等の車両や資材設備の見学に始まり、長生村土建組合様を講師とした土のう作りや積み方などの訓練や長生村が所有している防災資機材の見学、非常食の試食を実施し、10 月には長生村主催の地震津波避難訓練に参加し、避難所運営に協力していただきました。



発足式の様子



非常食の配給を手伝いました

また、災害発生時の避難生活について、建築を学ぶ大学生を講師にワークショップを実施し、避難所の運営方法について大学生と議論をしました。

令和 4 年度には、陸上自衛隊のご協力のもと、防災についての講話をいただき、自衛隊が災害時に使用する機材や、車両などを見学しました。一部の機材は実際に操作し、車両に試乗させていただくなど貴重な体験をさせていただきました。



自衛隊の野外調理器具



油圧を使った災害用機材



乗車してグラウンドを一周してもらいました

このような活動が新聞等で掲載され、地元の方々からも認知されはじめており、8 月には千葉県一宮川改修事務所からお声がけいただき、一宮川の治水や水防への備えなどを学ぶ工事現場の見学の機会をいただきました。

この取組ではドローンなどの最新の ICT 機器をつかった土木技術や、工事が完了してしまうとみることでできない、調整池の中などを見学することができ、実際に身近で発生した水害へ千葉県がどのように対応しているかが理解できたと思います。



ドローンを使った
現場確認



高所作業車に乗っての
現場説明

また、昨年度に引き続き 10 月に実施予定の「長生村地震津波避難訓練」への協力の申し出をいただきましたので、中学生が担う役割について村当局と協議してもらっています。

防災部の活動は、消防や自衛隊など災害救助の現場に直接かかわる仕事や、千葉県や村、建設業界などの災害防止に取り組む仕事への知識や理解を深めるキャリア教育も併せて実施することができ、大変有意義であると考えています。

今後もこのような活動を継続してゆくことにより、部員の生徒から他の生徒への発信、家族への発信を通じて、村内の家庭の防災意識が向上し、彼らが社会人となった 10 年後、20 年後には地域防災力の高い、「災害に強い長生村」ができることを期待しています。

というのが一連の流れでございます。少し纏めさせていただきますと、冒頭お話ししましたように、子ども達がだんだん少なくなっていく、じゃあこの村を誰が守っていくの？というところに行きつきます。平日の昼間、災害が起きると大人はいません。みんな働きに出てしまって、役場の職員と高齢者しかいません。そこで頼りになるのが唯一の中学の子ども達ということです。勿論危険な場所に行かせるわけにはいきませんが、安全な片付け、避難所で皆さんに食べ物や飲み物を渡したり、避難カードを作ったり、少し動きづらい方の手助けをしたり、そういったことは十分力になってくれるのかなと思っています。そして子ども達には発信力があります。実際に、普通の家庭のお父さんお母さんは我々がいくら呼びかけてもなかなか理解して

いただけない。こう「避難してください」「こういうふうに家庭内で準備してください」って言うても一向に言うことを聞いてくれない家庭が多いんですね。ところが、中学生が学校でこんなことをやって来たよ。役場の人達とこういうことをやって来たよ。という聞いてくれるんです。「お父さんこういうことをやらなくちゃいけない。お母さんこういう袋に逃げる時の荷物をまとめておかなかちゃいけないよ。」って言われると「そうだね」ってよく聞いてくれます。その子ども達の発信力を一つの頼りにしているわけです。中学生に頼るってことは冒頭に言った、村に何人でもいいから残ってもらう。私がお話する機会をいただきますと、「皆さんはこれから大きくなって大学に行って、そして就職をして、みんな都会に行きたいよね」って言います。やっぱり楽しいですよ。一度は経験してみないと故郷の良さも分からないし、勿論都会の良さもあります楽しい仲間といっぱいいろいろなことができます。それも経験して初めて故郷の良さが分かるかなっていうのもあるんで、「一度は行って、どうぞ都会に行って来なさいよ。でもそこで長生村の方がいいと思ったら帰って来てくれないかな。そして 20 年後 30 年後君達が大きくなってこの村を支えていくんだよ。」っていうことを常に発信しております。何とか一人でも二人でも残ってくれればなと思っていてすけれども、そう意味も含めて私ども長生村では 7 年前から中学生を相手に全校生徒に体育館に集まってもらい、各課の課長 13 人全員並べまして、中学生から質問を受けます。こういうのはどうなっているのかな。とか、こういう事をしてくれませんかという。そういう意見や要望を聞きます。それに課長が全部答えます。そして何々やってくれという要望を幾つか集めた中で、一つだけ実現します。その時の希望は外灯が少ない。帰るのに暗い。家が集まっている所はそんなでもないんですけど、5、6人で自転車で帰っていきますと最後は一人になります。その一人が行きつく先は家も無くて暗いんですね。だからそういうところに 60 基外灯を増やし子ども達の希望を叶えてあげました。次の年は尼が台公園にスリーオンスリーのバスケットのコートが欲しい。ということでそれも建てました。中学生の意見を聞いて、そして要望も聞いてあげる。そういうことによって、村が僕達の意見を取り入れてくれたんだ。子ども扱いするんじゃないくて、中学生の意見もしっかりと聞く、我々が目線を下げることが大事かなと思っています。中学校 3 年間やって次は小学校の 6 年生を呼んでやりました。グラウンドが滑る、走りづらい、小学校が 3 つありますから 3 年間かけて 1 校ずつグラウンドを整備しました。

我々が目線を下げて付き合っただけ。そして私が就任して直ぐ 10 年前から挨拶運動をやっています。皆さんもやっているとすけど、おはようございます。お帰り。こんにちは。ありがとう。そういう一つ一つをきちんとやることによって、だんだん村って過ごしやすくなるよな。楽しいよな。そういう思いを実感していただく、今どうしても大人が少し過保護だと思っています。子どもがナイフを持てば危ない、危険なことを取り上げちゃうと今度その痛いことや失敗したことが経験できなくなってしまう。できるだけ子ども達に実際にやらせてみるってことが必要なのになって思っています。ですから、今回の防災部も子ども達実際に機械に触ってみる。ひょっとして木が倒れていたらそれを起こしてみる。どういう力でそれが元に戻るのか、そういうのも実感として感じてもらう。そして将来にわたって村を大事にする気持ち、そして親を大事にする気持ち、高齢者を大事にする気持ち、そういうのを少しでも育んでくれればなというのが狙いにあります。

先程も申し上げましたが、子ども達が愛着を持って茂原市にそして長生村に一宮町に白子町に睦沢町に長柄町に長南町に二人でも三人でも将来にわたって残っていただく或いは帰って来ていただく。そういう施策を全面的に考えていかないと外に一回出て楽しみを覚えると帰るという気迫が薄れてきてしまうのではというのを心配しております。

今、我々長生郡市を取り巻く環境はだんだん人が減っている。何処も減っているのが事実です。手をこまねいているわけではありませぬけれども、子育て支援も殆どが高校生まで医療費が無料だし或いはお子さんが生まれると 10 万 20 万お祝金をあげるところもありますし、この非常に厳しい世の中で子育て世帯に対して 10 万円上乗せ或いは、うちの村は国の 5 万に 2 万円上乗せなんですけれども、そういったいろんな施策をやっていますけれども、なかなか定着しないのが事実かなと感じております。一つ一つが上手く特徴を出せばいいんですけれども何処も同じようなことをやっていて、これといった決め手がなくて、何処も同じ悩みが実際のところなんです。ですから我々に聞こえてくるのは誰がやったって一緒だよ。同じだよ。という住民の諦めというのが聞こえてきて非常に辛いんですけれども、実際の決め手は無い。だから箱物を建てたり、お金を差上げたりするんですが限界があります。

今、給食の無料化、無償化がトレンドみたいになっています。うちの村は残念ながらちよっと子どもの数が多いので 7 千万程かかるということで来年度はちよっと無理です。おそらく茂原市さんも子どもの数が多いから厳し

いんじゃないかなと思いますけど、睦沢さんや長柄さんに長南さんはやれそうです。町村長で相談する中で、やれるところはやっついんじゃないですか。それが一つの町の特徴でもあって、それで子どもを持っている家庭が助かるのであれば、それは早めにやっついで。うちの方は 2、3 年かかるけど後を追っかけてますよっていう話になってるんですけどね。なかなか施策の足並みが揃わないところがあって、それはそれで各市・町・村の特徴だから私自身は仕方がないことだし、自分が出来るところをやればいいと思っています。

この中学生との付き合いを大事にしていって愛着を持ってもらって、そして今消防団員のなり手がいないで困っている中で、こういうのに携わることで僕が村を守る。私達が村を守る。地域を守る。そういう気持ちで大人になってくれて、消防団にも入らなくちゃいけないよな。消防団が無くて困っちゃうよな。そういう意識付けも少しはできるのかなと思っています。少しだけ都会で殆ど田舎の地域がどうやって生き抜いていくのか。ずっと模索する日々でありますけれども住民の皆さんと色々な知恵を出し合って、そしてなるべくならお金を使わないでもできる、この防災部みたいなものができて、それが子ども達に地域を守っていくという心が芽生えてくれば、これは大成功かなと思っています。

できれば皆さんがこんな話があったよ。ということを是非広めていただきまして、この長生村からの発信ではありましたが、茂原市を中心とした長生郡内そして千葉県にも広がって自分達が地域を守るんだっていう中学生の気持ちが少しでも広がればいいかなと思っています。つたない話になりましてけれども私どもの体験談そして今の施策を説明しまして講話としたいと思います。また今後とも皆さんにはいろいろご理解ご協力いただくことも多いかと思いますがよろしくお祈りしたいと思います。結びに茂原中央ロータリークラブの益々のご発展をお祈りいたします。どうも失礼いたしました。



出席報告

| 例会日 | 会員 | 出席 | MU | 欠席 | 免除 | 出席率% |
|------|----|----|----|----|----|-------|
| 1/24 | 27 | 17 | 5 | 5 | 0 | 81.48 |
| 1/10 | 27 | 24 | 2 | 1 | 0 | 96.29 |